

エコプロダクツ 2010「リサイクル・ペーパー・フェア」開催報告！

平成 22 年 12 月 9 日（木）～11 日（土）の 3 日間、東京ビックサイトにおいて日本最大級の環境展示会エコプロダクツ 2010 が開催され、当センターもブースを出展し、リサイクル・ペーパー・フェアを行った。

当センターのブースでは、古紙利用製品、雑がみ、禁忌品（リサイクルの妨げになる異物）の実物、パネルなどを展示し、新聞、雑誌、段ボール以外にもリサイクルできる紙があること、古紙の排出時に禁忌品が混ざらないよう注意することなどを伝えた。また、使用済みのコピー用紙からはがきをつくる紙すき体験、環境や紙リサイクルをテーマにした紙芝居の上演も行われ、多くの方々が楽しみながら紙のリサイクルについて学んでいた。

最終日には全国の小中学生を対象に今年度行った作文、標語、ポスター 3 部門の紙リサイクルコンテスト金賞者の表彰式が行われた。金賞に選ばれた 6 名全員が出席し、一人一人に賞状や記念の盾などが手渡され、喜びの声が聞かれた。

会期中の延べ来場者数は 12,500 名を記録した。

開催日時：平成 22 年 12 月 9 日（木）～ 11 日（土）10 時 ～ 18 時（最終日は 17 時終了）

開催会場：東京ビックサイト東展示場 東 2 ホール

主 催：財団法人古紙再生促進センター

共 催：全国製紙原料商工組合連合会、日本再生資源事業協同組合連合会
社団法人東京都リサイクル事業協会





【全国小中学生紙リサイクルコンテスト 2010 金賞者表彰式】



ポスター部門

小学生の部 山本愛花さん
「リサイクルっていいな」



中学生の部 倉田佳汰さん
「紙から紙へ」



標語(スローガン)部門

小学生の部 山本 蘭奈さん

すてないで
紙は何度も
リサイクル

中学生の部 栗山港名さん

リサイクル
未来の地球を
支えてる

小学生の部 加藤千裕さん 「紙のリサイクルは身近から」

「紙のリサイクルは身近から」

「紙のリサイクル」この言葉を聞いたとき、私は、はじめ、あまり分かりませんでした。理由は、すごく大きなリサイクルを考えようとしていたからです。そこで、本当に大きいものしかないのか、身近なものはないのか考えて調べることにしました。

まず、わが家で一番やっていることを考えてみました。ダンボールや新聞紙、ざつ紙などの紙類をいつも使った後どうしているかです。調べた結果、はい品回しゆうに一番出していることが分かりました。

最初わたしは、はい品回しゆうはただ集めて捨てるだけと思っていました。でも、はい品回しゆうは資げん回しゆうと言われていることが分かりました。その「資げん」という意味がわからず、国語辞典でひいてみたら「いろいろな物を作り出す素」と出ました。

そしたらもつと知りたくなったので、両親に聞いてみました。両親は「はい品回しゆうはもう一回りサイクルできる物を集めているよね。それをリサイクルしているんだよ。」と教えてくれました。私は、資げん回しゆうがすごいことをやっていることを知り、とても感心しました。

資げん回しゆうのことを考えていたら、小さなリサイクルを見つけました。「工作」です。広告やダンボールをちりとりにしたり、あき箱を使って作品を作ったりいろいろな物がありました。楽しくて良いリサイクルだと思います。でも、わが家ではいけないところもあります。私の家は、ときどき牛にゆうパックを捨ててしまっています。母に言いましたが、

「ういよ」。

と言ったのであきらめていました。でも、私は、エコリダーなので、エコリダーにふさわしいように、これからは注意していきたいです。

私は、それを改ぜんするには、資げん回しゆうに出すか、リサイクルBOXに出す方がいいと思います。でも、リサイクルBOX、リサイクルBOXと言いながら、実は、出したことがあります。出してないから場所も知りません。直したいところはまだまだたくさんありますが、まずはこの問題を直していきたいです。かんきょうにも悪いので、できるだけ早くいろいろ直したいです。

私たちの家庭には、紙類のリサイクルのことだけで、良いこと悪いことがたくさん見つかりました。最初身近な物はあるのかなと思っただけで、逆に身近な物のほうがたくさんありました。それに、やりやすさでも身近なほうが良いことも分かりました。大きいものだと全体が見えなくて、やる気がなくなるけど、身近なら、エコのことなどいろんなことを考えることができ、ときばきできるからです。これから、他の物でもかんがえてみたいです。

「まず意識改革」

うだるような暑さに、突然のゲリラ豪雨。今年の夏は、まるで地球のネジが緩んだような異常気象だった。私は、学校の新聞委員会に所属し、学校新聞をつくっている。私の学校新聞には、その時その時に応じたニュースを採り上げて解説する「ニュースの窓」というコラムがある。

私は、今年の異常気象を採り上げた。「地球が泣いている・叫んでいる」という見出しで、環境破壊について考えてもらおうと思ったわけだ。

書いているうちに思った。考えるだけではだめなのだ。行動を起こさなくては。

中学生の私たちにできることは小さいし、限られている。しかし、その小さいことを誰かがやらなくてはならないと思う。小さくても続けなくてはならないと思う。

私たち中学生が簡単にできて、継続できること。まっ先に浮かんだのは、リサイクル活動への参加である。

月に一回、地区の廃品回収がある。各家庭が段ボール、雑誌、紙パックなどを出す。その時に気をつけたいのは種類ごとに分別して出すことだ。古紙は種類ごとにそれぞれ違う製品の紙に再生される。そういうことを少し知っているだけで、分別の大切さが自覚できる。新聞で呼びかけてみよう。そして「分別」は私たち中学生の家庭での仕事にするのだ。

古紙が出るのは家庭からだけではない。会社や工場、デパートやスーパーからも大量の古紙が出る。

「お父さんの会社では、余った紙をどうしているの？」

そんなふう聞いてみるのもいい。親子で話すことも私たち中学生の仕事だ。

チリも積もれば山となる。大量の古紙が集まって、再生工場に運ばれ、新しい紙ができる。「再生」って言葉は、すてきだと思う。

命がつかっていくという感じがする。

紙は森林を伐採し、その木材から作られる。木材から紙を作るのと、古紙をリサイクルして紙を作るのを比べると、作業が一部省かれるため、エネルギーを使う量が少なくなる。いわゆる省エネだ。しかし、古紙のリサイクルでも、より新しい紙に近い白さを求めると話は違ってくる。できないことはないが、それだけ多くの手間とお金がかかる。大切なことは、きれいなもの、新しいものばかり選ばず、できるだけ再利用した製品を選んで買うことだ。

かわいい文房具、キラキラ光る包装紙、キャラクターが印刷されたノート。かわいいからといってすぐ買う。飽きたからといってすぐ捨てる。その傾向が強いのは私達中学生に大きい。

意識改革を自分が進める。人にもすすめる。私たち中学生の歩む第一歩だ。